

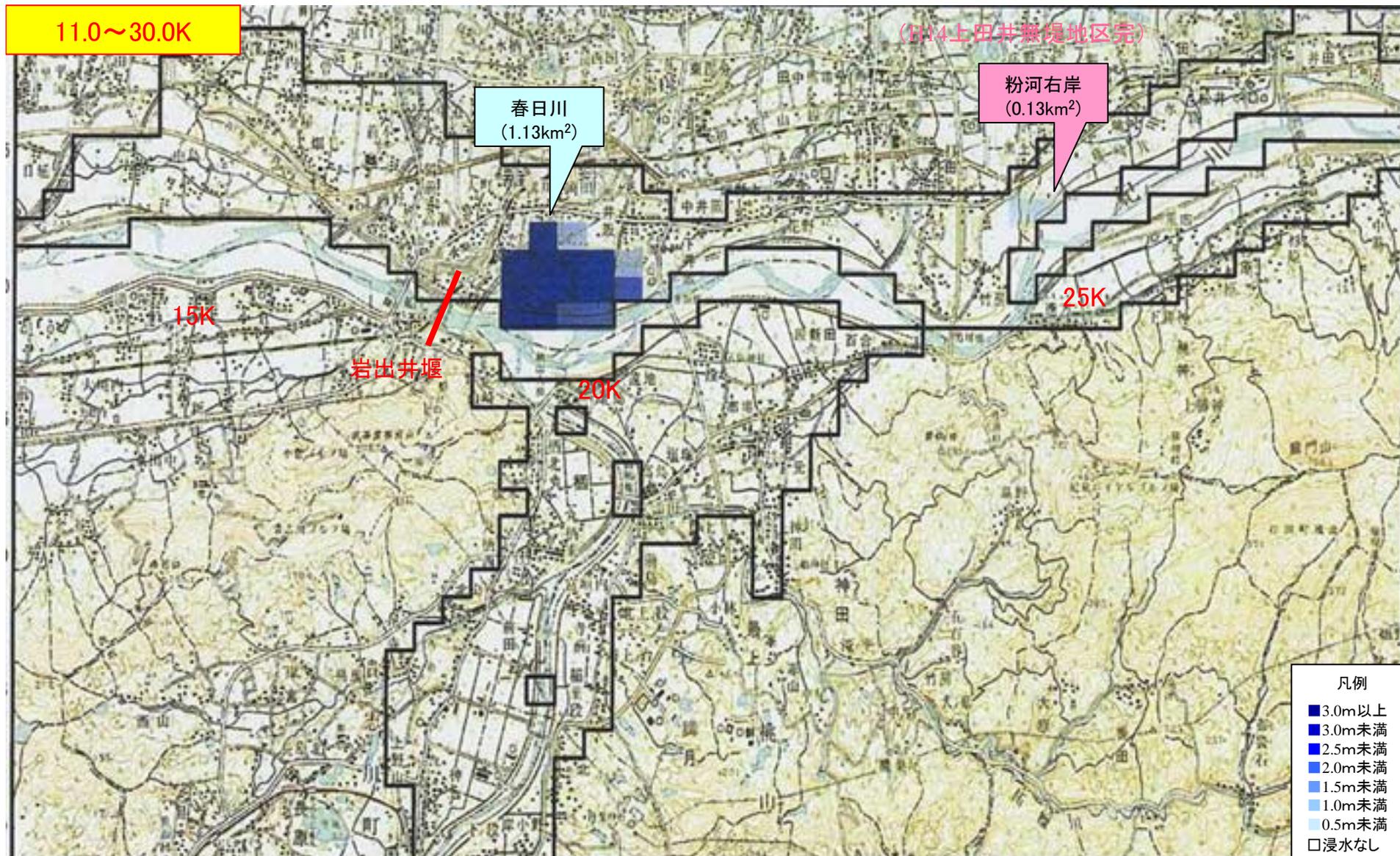
対策案の検討

岩出狭窄部

昭和34年9月型洪水(計画雨量313mm) における氾濫状況(2)

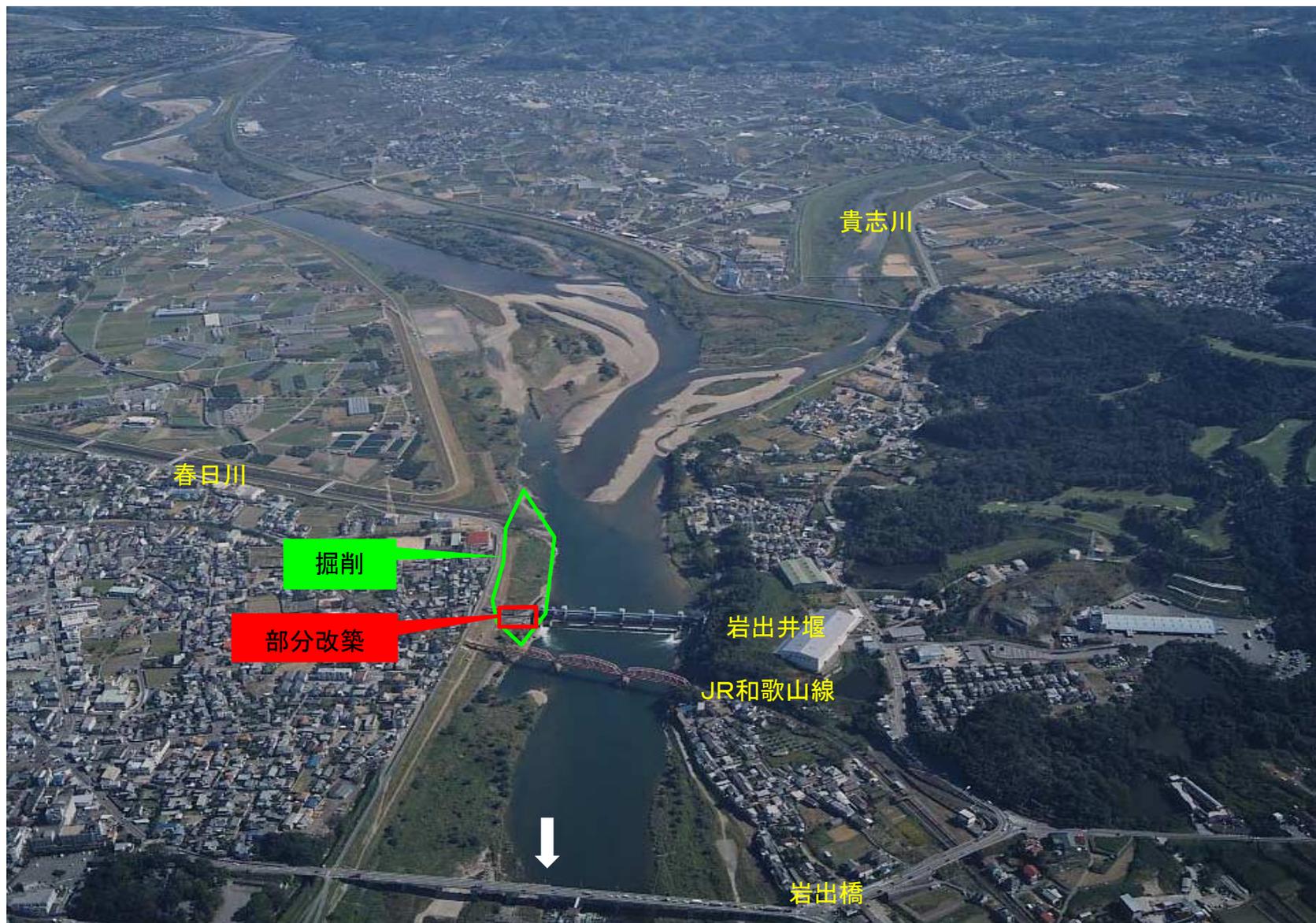
大滝ダム
2500m³/s一定放流

▼現況(岩出狭窄部)



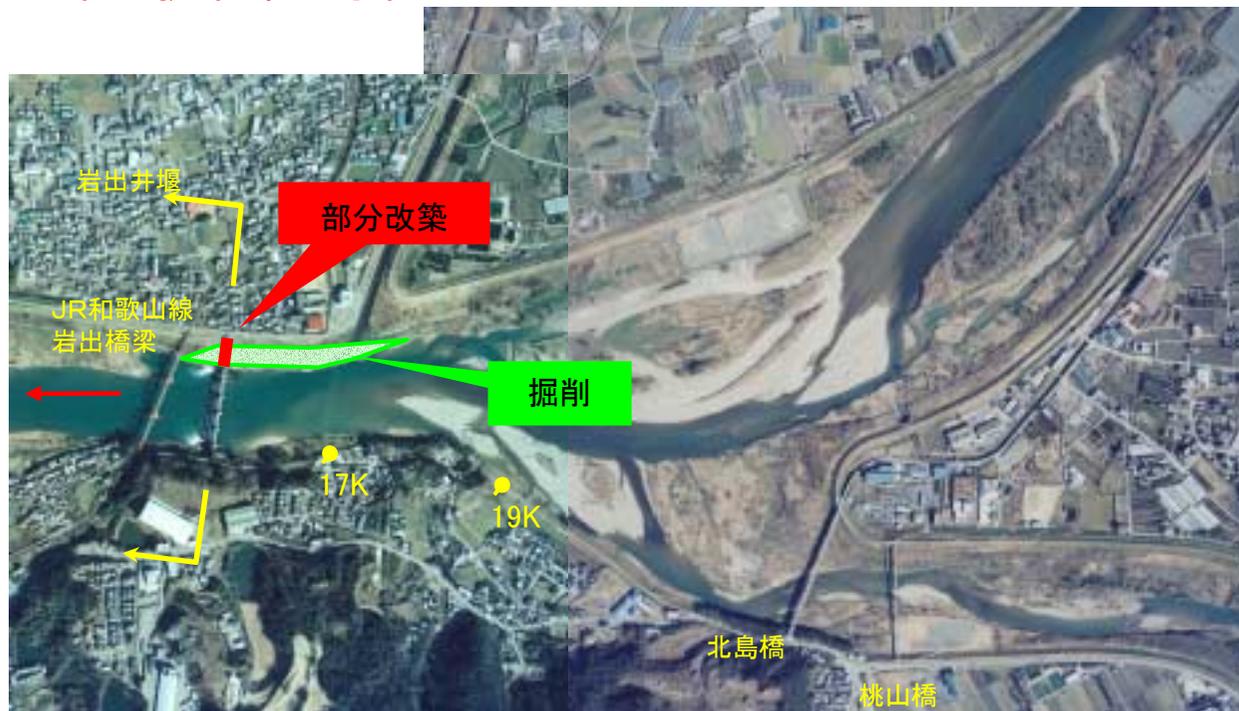
岩出狭窄部の対策(案1)

部分改築＋掘削

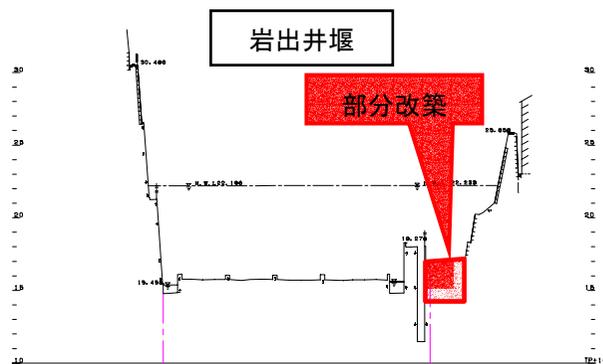


岩出狭窄部の対策(案1)

▼岩出狭窄部の対策



▼井堰の部分改築

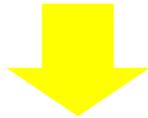


▼事業費

工種	金額 (百万円)
部分改築	963
掘削	479
合計	1,442

岩出狭窄部の対策(案1)

掘削



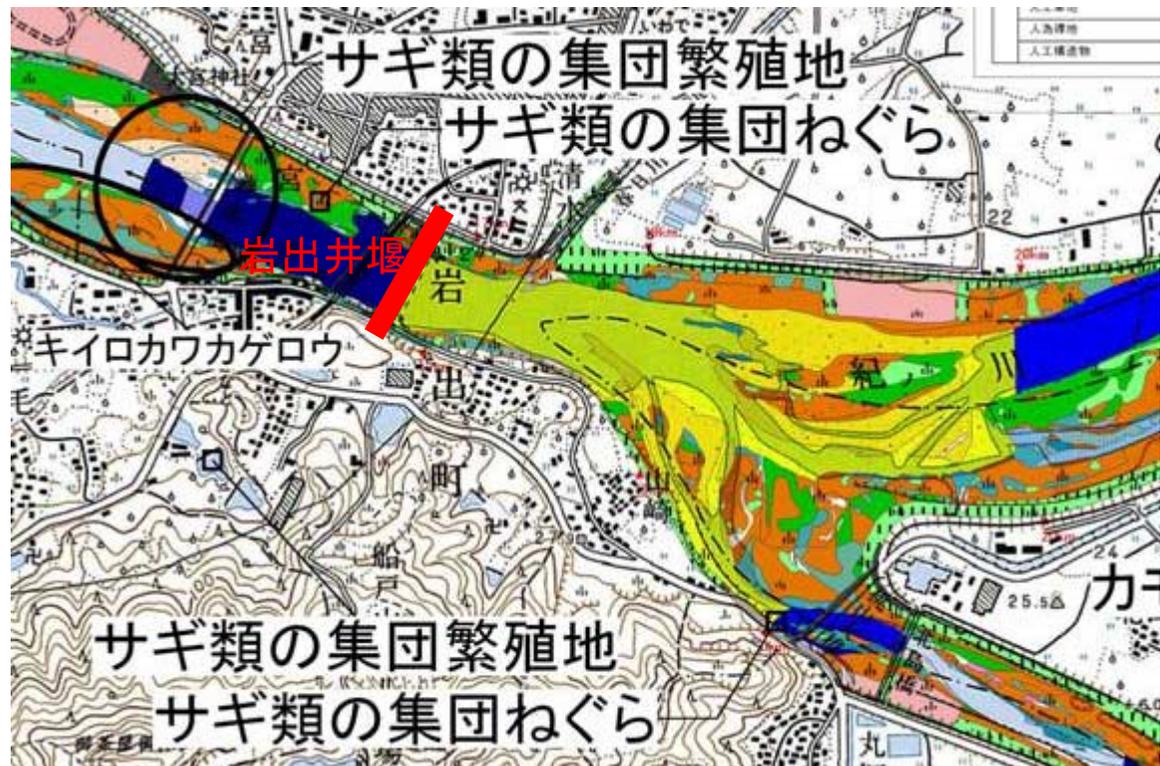
【課題】

- ・環境対策
- ・景観対策
- ・掘削(4万m³)

【環境について】

- ・右岸側は草本植生およびヨシ・ツルヨシ・オギ群落である。
- ・左岸側は主に高木の樹林地となっている。
- ・堰下流の右岸側にはヨシ・ツルヨシ・オギ群落があり、カヤネズミの生息地やオオヨシキリの繁殖地となっている可能性がある。
- ・堰上流の右岸側高水敷部の植生区域は春日川の流入によって比較的小さな植生区域となっている。

凡 例	
河川	河川
水深(水深1m以下)	
水深(水深1~2m)	
水深(水深2m以上)	
状況	
ワンド	
溜水域	
よどみ	
干涸	
開放水面	
水原	
植生	
自然植生	
コシロツルヨシ群落	
オオヨシ	
ササガ	
雑草植生	
低木林	
高木林	
雑草地	
耕作地	
人工草地	
人工建物	
人工構造物	



岩出狭窄部の対策(案1)

【景観について】

- ・この地からは大台ヶ原や吉野に源を発する紀の川、箱山、紀州富士の名で知られる龍門山の美しい姿を望むことができます。
- ・昔は岩出の地名どおり川の中には人とり岩・畳岩・なまず岩・えぼし岩や車岩などと呼ばれる奇岩が点在していたそうです。
- ・この地は、巖出御殿が取り壊された後、御殿山と呼ばれ昭和のはじめ頃まで公園として地元の人々に親しまれていました。
- ・奇岩のあった辺りが川の流れの障害となり再三にわたる岩出町の水害の原因となっていたので川幅を広げるため、奇岩及び御殿山の一部を取り崩すことになり、かつての姿は失われています。



①JR和歌山線岩出橋梁付近(右岸)



②JR和歌山線岩出橋梁付近(右岸堤防)



③岩出井堰上流付近(右岸)

岩出狭窄部の対策(案2)

全面改築

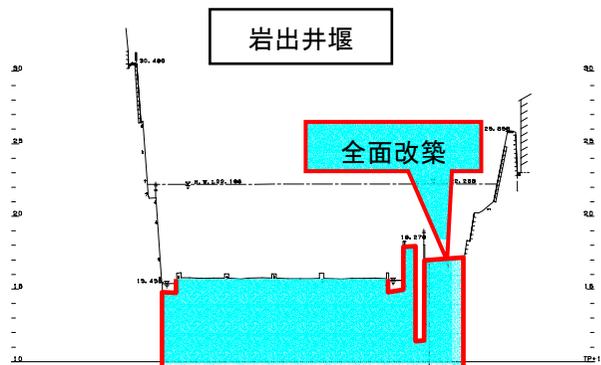


岩出狭窄部の対策(案2)

▼岩出狭窄部の対策



▼井堰の全面改築



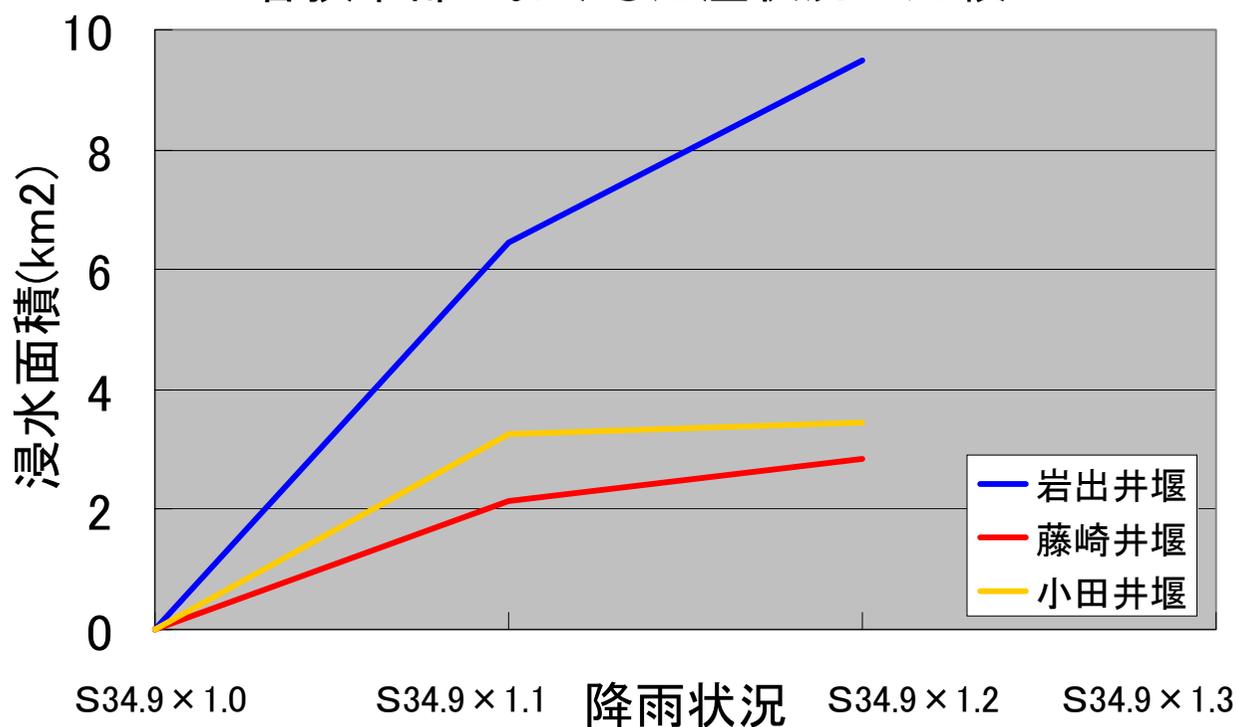
▼事業費

工種	金額 (百万円)
全面改築	62,218
合計	62,218

井堰改築の考え方

各井堰における目標規模を上回る洪水の被害を比較すると岩出井堰は、被害が大きくなる傾向にあるが、藤崎井堰及び小田井堰は、ほとんど変わらないと考えられる。よって、岩出井堰は、目標規模を上回る洪水を考慮した改築方法を検討することが重要。

各狭窄部における氾濫状況の比較



岩出井堰全面改築の効果

【流下能力】

井堰部分改築
S34.9洪水対応

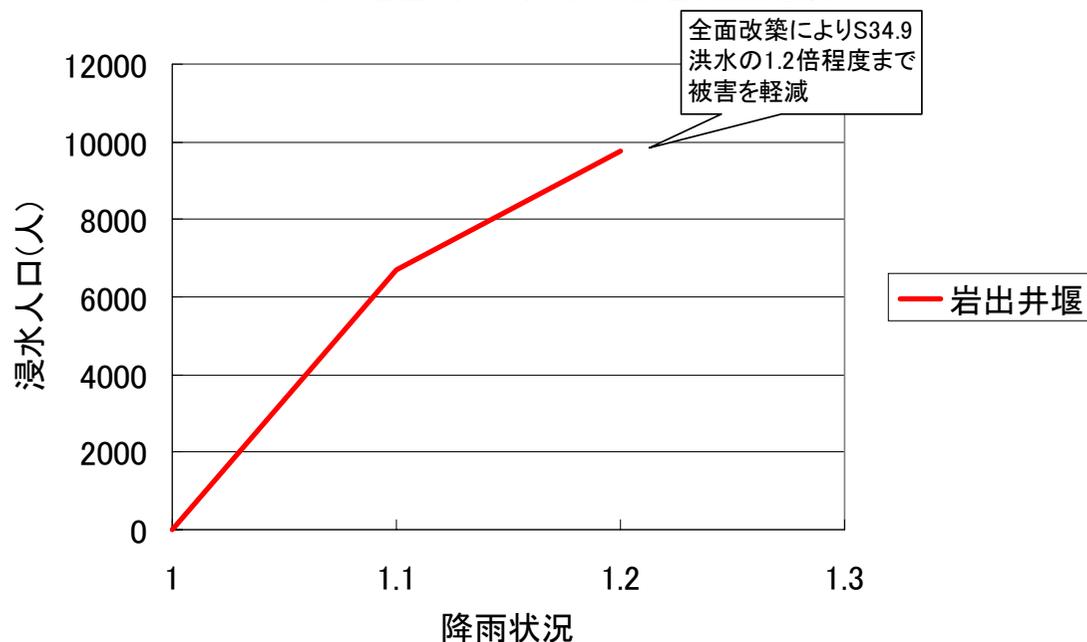


井堰全面改築
S34.9洪水の1.2倍対応※注1

注1) S34.9洪水の1.2倍時には、
大滝ダムの洪水調節能力をオーバー

【被害軽減効果】

岩出井堰全面改築におけ被害軽減効果



岩出狭窄部の対策案の比較

【部分改築(案1)】

(メリット)

- ・比較的河道の改変が少なく、事業費が全面改築に比べ安い。

(デメリット)

- ・計画規模を上回る洪水が発生すれば、大きな被害が発生する可能性がある。
- ・右岸の高水敷を掘削するため、堤防の安全性を十分検討する必要がある。

【全面改築(案2)】

(メリット)

- ・計画規模を上回る洪水にも対応でき、下流部への安全性を向上することができる。
- ・井堰を全面改築(可動化)することで、井堰上流の堆積土砂の流下が期待できる。

(デメリット)

- ・部分改築に比べ事業費が高い。